

平成16年7月1日

(第58号)

# 鵜戸

暑中お見舞い申し上げます

鵜戸神宮ホームページ <http://www.btwm.ne.jp/~udojingu/>

発行者兼編集者  
鵜戸神宮社務所

ものと思ひます。実際鵜戸の海も森のよく繁ったところに魚が寄って来ると漁師はいいです。

日本人は、鎮守の杜(森)や里山を大切に守ってきた。荒れた国土に緑を戻そうと植林を戦後続けてまいりました。全国植樹祭も五十五回を数えます。この植樹祭開催を機に今迄の「県の木」がフェニックスだけでしたが、「ヤマザクラ」と「オヒスギ」が緑化運動の推進にふさわしい木として「県の木」に新たに平成十五年三月指定されました。これらの木は、鵜戸の山にもよく似合う木だと思ひます。

鵜戸神社におきましてはあらゆる機会を通してご神徳の高揚につとめ、境内の整備、植樹にも力をつくしてまいりました。

鵜戸の山々はすっかり夏の装いとなりました。これから暑さきびしき折柄、氏子崇敬者の皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げます。



福岡藩伝柳生新影流兵法

二月一日午前十時三十分より、例祭が厳粛に斎行された。

祭典には、責任役員をはじめ県内外の神社関係者、崇敬者の参列を賜り、宮司祝詞奏上に続き本庁幣が献ぜられ、舞楽「蘭陵王」が奉納された。又、祭典に先立ち福岡藩伝柳生新影流兵法が奉納され、参列者は連綿と受け継がれてきた兵法に見入っていた。

奉祝行事として二月一日には、第三十二回鵜戸神社奉納四半の大会が開催され、五十六チーム、二百五

十九名の参加があった。この四半的のいわれは、的までの距離が四間半、使用する弓、矢が四尺五寸の長さ、的が四寸五分の大きさで全てが四・五となっているところから来ている。

当神社は、念流、陰流の剣法発祥の地とされていることから、二月八日には第五十一回剣法発祥鵜戸山頭彰剣道大会が開催された。県内から百六十八チーム、女子個人に百七十一名が出場し、白熱した試合が繰り広げられた。

### 例祭 齋行



第32回鵜戸神社奉納四半の大会



第51回剣法発祥鵜戸山頭彰剣道大会

### 第五十五回全国植樹祭によせて

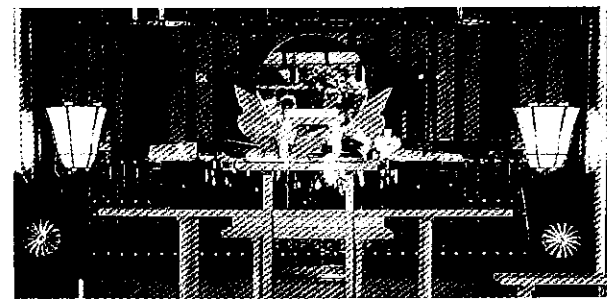


宮司 杉田 秀清

天皇陛下御製  
人々の幸願いつつ国の内めぐりきたりて十五年経つ  
皇后陛下御歌  
幸くませ真幸くませと人びとの声渡りゆく御幸の町に



お手植えになられる天皇陛下 神社新報社提供



幣 饌 料 奉 幣

天皇皇后両陛下におかれましては、四月二十五日の西都原古墳群特別史跡公園で開催されました第五十五回全国植樹祭にご臨席の為四月二十四日にご来県され、二十七日迄宮崎県内を幸啓されました。

この行幸啓にあたり、鵜戸神社にも幣饌料の奉られる旨ご伝達があり、行在所のシエラトンホテル三十七階においてご到着の二十四日午後五時頃伝達式がおこなわれました。直ちに鵜戸

神宮に奉持し参籠、翌二十五日に幣饌料奉幣奉告祭を齋行いたしました。

二十六日夜には、日本会議宮崎の主催のもと提灯のともし火にまごころを託し、二千五百人の提灯行列で宮崎観光ホテル前大淀川対岸にて両陛下を奉迎申し上げました。折りしも強い雨にもかかわらず皆今か今かとお出ましをお待ち申し上げました。両陛下は午後七時半に提灯をお持ちになり窓際に立たれ奉迎に提灯を振られお応えになりました。両陛下への「万歳」が繰り返され感激の極みでありました。

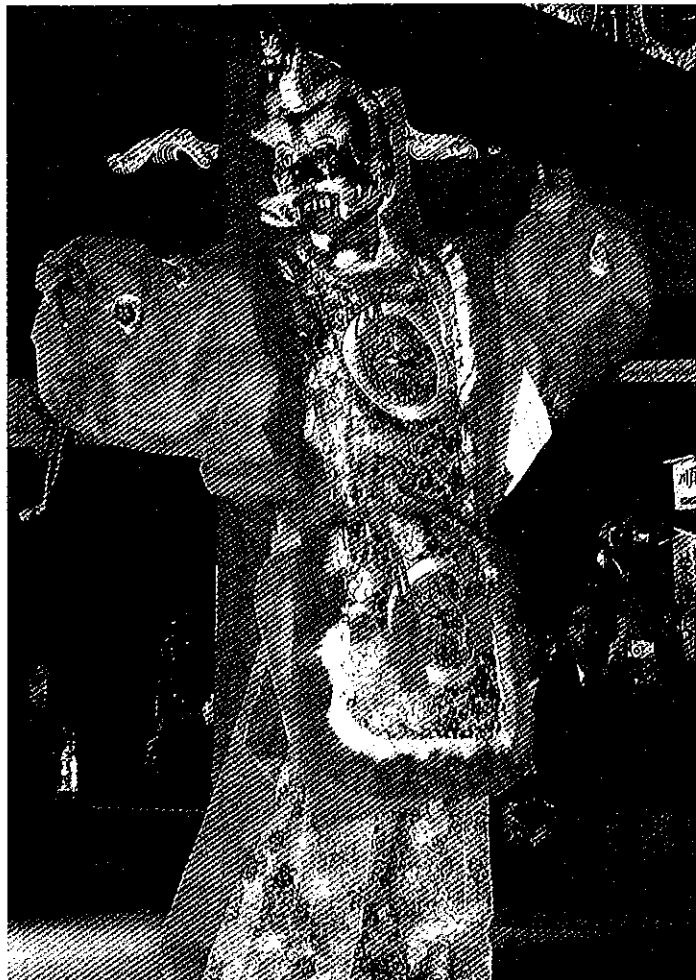
今回の全国植樹祭のテーマは「空と海 心をつなぐ 森づくり」でありました。その基本となっているのは緑化を推進することによって、豊かな国土、よい自然環境をつくり出すことであり、水を蓄え、浄化し、山に緑が増すことにより、災害を防ぎ、めぐり廻って海も豊かな恵みを受けるといふ森の大切さを願っている



奉 迎 の 提 灯 行 列



神社新報社提供



舞 楽 蘭 陵 王



豊 栄 の 舞

かつて旧暦三月の祭礼日に大漁、五穀豊穡、南壳繁盛等を祈願する人々で賑っていたと伝えられる縁日大祭が、三月二十七日多数の参列を賜り斎行された。奉祝行事として、日本民謡協会日南支部会員による「シャンシャン馬道中唄」

### 縁日大祭斎行

当神宮職員による舞楽「蘭陵王」、「鵜戸さん獅子舞」「豊栄の舞」が奉納された。この祭典は、昭和二十九年を最後に途絶えていたが、平成十一年に伝統行事の復活の気運が高まり四十五年ぶりに斎行された。



鵜 戸 さ ん 獅 子 舞

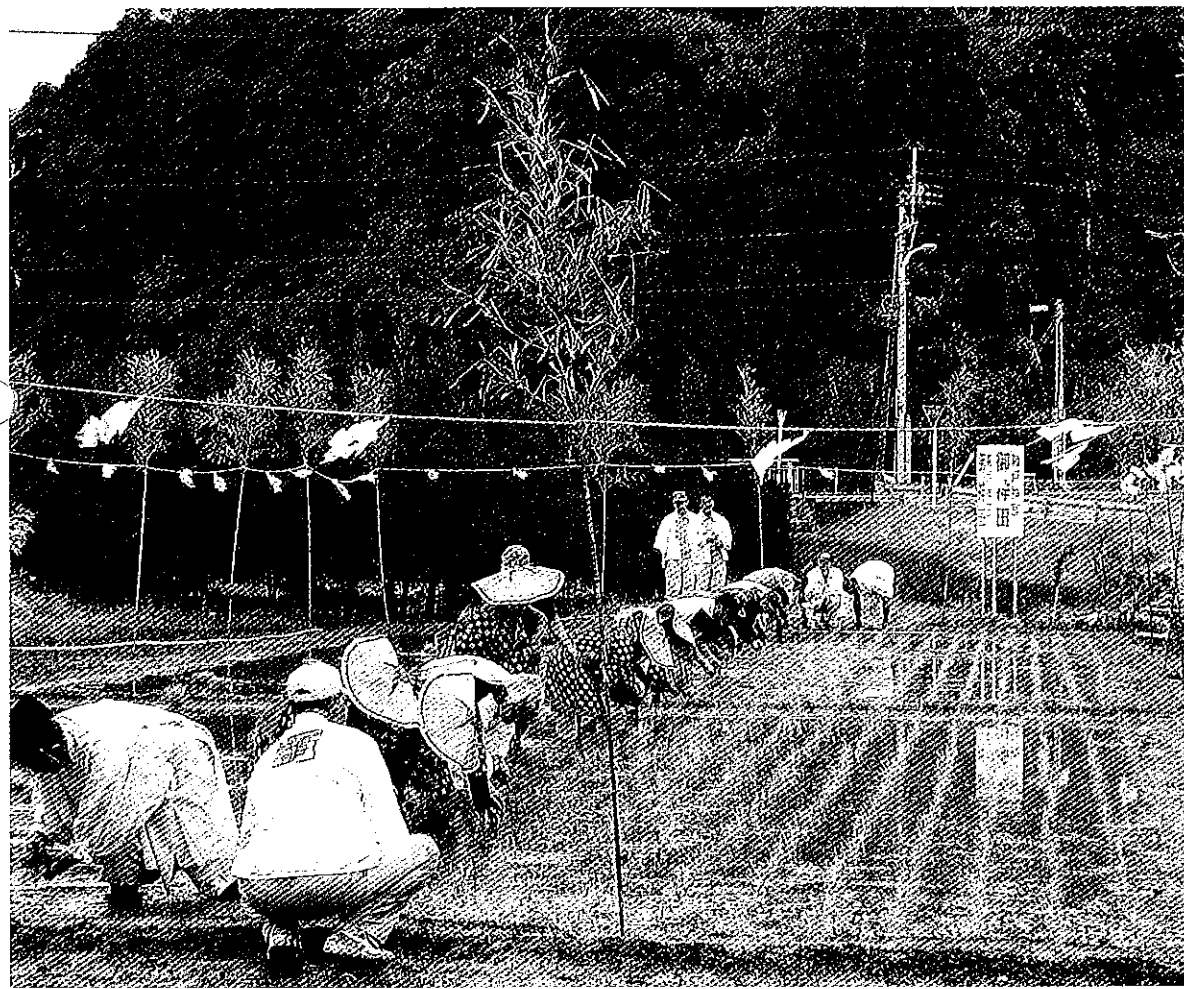


シ ャ ン シ ャ ン 馬 道 中 唄

### 御田植祭斎行

昨年まで、日南市大浦の氏子の方々の休耕田を借り受け御神田としていたが、今年より日南市鵜戸の氏子、川瀬満政氏の休耕田約二アールを借り受け御神田とする事となった。三月十八日には、この御神田において午前十時三十分より御田植祭が斎行され、約五十名の参列を賜った。

種祭を斎行。三月五日には御神田清祓祭が斎行され準備が進められてきた。祭典では、稲の順調な生育を田の神に祈願した後、かすり着物に編みがさの早乙女や地区の方々が、コシヒカリとモチ米の苗を丁寧に植えていった。七月中旬には抜穂祭が斎行され、十一月の新嘗祭で御神前に供えられる。





境内の木々も若葉に覆われ、さわやかな季節となった五月五日の「子供の日にそろいの鉢巻、はつぴ姿の子供たち五十名が「いさみ太鼓」を奉納。鵜戸の大神様と祖先の恩とに感謝し、健やかな成長を祈願した。

### いさみ太鼓奉納

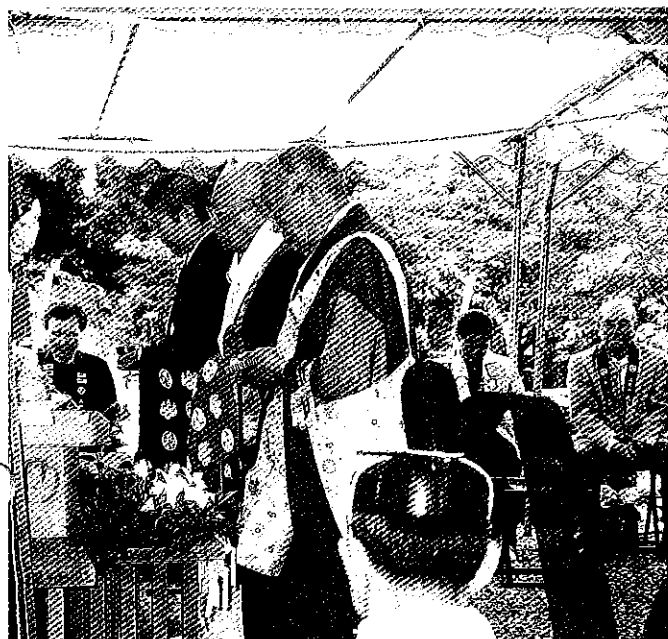
G・Wとあつて参拝者も多く、元気な子供たちに盛んにカメラを向けていた。このいさみ太鼓は、当神宮下の荒磯に打ち寄せ砕け散る様を、太鼓・笛・鈴の怪快なりズムで表現し、これに合わせて子供達が勇壮に舞っている。

### 別当宮司先賢慰霊祭齋行

第六代宮司後藤幸平氏(昭和二十三年〜二十九年)により、神仏合同の慰霊祭として位置づけられた別当宮司先賢慰霊祭が、五月二十二日午前十一時より、鵜戸山別当墓地において厳かに斎行された。

祭典には、歴代別当宮司遺族をはじめ多数の参列を賜り、宮司祝詞奏上の後、潮満寺住職・伊勢木俊真氏、願成就寺住職・川崎光俊氏、王楽寺住職・甲斐秀文氏により経が読まれ、御詠歌が流れた。

遺族は故人を偲び、鵜戸山の長い歴史に思いを巡らした。



### シヤンシヤン馬道中唄全国大会開催

昭和三十年に作曲され、愛唱されているシヤンシヤン馬道中唄の第十八回全国大会が、三月二十七日・二十八日の両日開催された。初日は日南文化センターにて予選があり、県内外から三百八十三名が参加した。

二日目は当神宮にて決勝戦が行われ、年齢ごとに分けられた部門に二百四十八



名が出場。太鼓や三味線、尺八などに合わせ自慢ののどを競った。総合優勝に当たるグラントチャンピオンには小淵華子さん(宮崎市)が選ばれた。

又、決勝当日は新婚夫婦が初参りをするシヤンシヤン馬道中の鵜戸さん参りが再現された。これは、当地方の風習で明治の中頃まで行われていた。



今年も、九州管内から二十三組の応募があり、三組の新婚夫婦が選ばれた。単衣の着物、脚絆姿という昔ながらの出で立ちで御本殿にて正式参拝の後、花嫁が乗った馬の手綱を花婿が引き広場を一周した。

参拝者も、しばし足を止め、新婚夫婦のしぐさに暖かい拍手を送ったり、一緒に記念撮影をしていた。

### 責任役員 氏子総代改選

五月一日に氏子総代会、五月十四日に崇敬者総代会を開催、任期満了に伴う責任役員改選が行われた。これに先立ち、各地区において総代の改選が行われた。

その結果、先の方々が選ばれ委嘱式が行われた。任期はそれぞれ三年である。

#### 記

責任役員を委嘱します。

平成十六年六月一日

- 田中 静・植野章一
  - 横山 忠男・末元朝平
  - 長友 治波・越重利
  - 湯浅 智視・竹山好行
- 氏子総代を委嘱します。

平成十六年五月一日

- 長谷川 弘・平下邦憲
- 後藤 邦治・高橋和昭
- 江口 義雄・杉原与市
- 松浦 満廣・長友泰
- 竹山 三士・磯上英機
- 関屋 宗憲・関屋勝

平成十六甲申年鵜戸神宮御神事一覧表(七月〜十二月)

日	時間	祭	祀	名
1日	10時	十	月次	月次
3日	10時30分	中	祭	明の緑治大祭
6日	10時	立	冬	平成遷座記念祭
7日	10時	立	冬	神御衣三祭
15日	10時	大	祭	七五三祭
17日	10時	大	祭	儀式殿鎮座記念祭
23日	10時30分	大	祭	新嘗祭(五穀豊稔感謝祭)
24日	10時	十	月次	水月
1日	10時	十	月次	月次
3日	10時	一之卯	祭	月次
13日	10時	一之卯	祭	月次
17日	10時	一之卯	祭	月次
22日	9時30分	未	祭	皇智神祭
27日	10時	未	祭	福智神祭
1日	10時	八	祭	月次
4日	10時	一之卯	祭	月次
9日	10時	一之卯	祭	月次
20日	10時	一之卯	祭	月次
23日	10時	一之卯	祭	月次
11日	10時	一之卯	祭	月次
11日	10時30分	八	祭	月次
中旬	10時30分	八	祭	月次
31日	15時	大	祭	除夜祭
31日	10時	中	祭	煤払祭
27日	10時	末	祭	天長祭
15日	10時	末	祭	門守祭
3日	10時	一之卯	祭	火産霊神社例祭
2日	10時	一之卯	祭	縁日祭
1日	10時	一之卯	祭	月次祭

# 彩墨画奉納

二月十九日、韓国在住の中国彩墨画家趙潤勤氏より彩墨画が奉納され、午前十一時より奉告祭が斎行された。

作品は、氏が平成元年に当神宮に参拝された折、「山と水の混在する美しい風景」に感動され、スケッチをして韓国で仕上げられ

た。縦四十・五センチ、横三十七・五センチの大きさで、墨と絵の具で描かれている。

趙氏は中国出身で、雲を描いたら当代随一といわれており、十八年前から宮崎、鹿児島にて個展を開かれている。



趙潤勤氏 中央

## 新職員紹介

巫女 外山由香

生年月日

昭和五十九年三月十五日

最終学歴

福岡コミュニケーションアート専門学校

趣味

散歩

常の信条

一生懸命



巫女 河野朱美

生年月日

昭和五十九年十月二十三日

最終学歴

日南農林高等学校

趣味

映画鑑賞

常の信条

思いやり



巫女 河野舞衣  
(五月三十一日)  
斎女 永嶋知子  
(六月三十日)

## 辞令

### サンゴシトウ

落葉小高木で高さ四〜六mになる。葉はやや長い葉柄のある三出複葉で互生。六〜九月に枝先の花序に多数の赤紫色又は暗赤紫色の花をつける。花は全開しない。



## 境内の植物

願によりその職をとく